

ウェブ・アクセシビリティ について、ちょっと考えてみよう

バリアフリーなウェブ・サイト

●ウェブの「段差」をなくす●

「ウェブ・アクセシビリティに配慮した」という表現がある。ややこしい話だが、英語圏でいうアクセシビリティは、日本で定着しているバリアフリーということばとほぼ同じ意味になる。つまり、ウェブ・アクセシビリティとは、インターネットの世界のバリアフリーを指すことになる。ウェブ・アクセシビリティに配慮するとは、インターネットの世界に存在する数々の「段差」をなくすことともいえる。

では、インターネットの世界にある「段差」とは何だろうか。例えば、レイアウトを優先して文字の大きさが固定されたサイトがある。これは高齢者や視覚障害者にとって見にくく使いづらい。

文字の大きさを固定することで多くの人を拒否し、ウェブコンテンツ（ホームページの内容）が伝わらないように「段差」をつくっているともいえる。完全な対応は難しいが、それでも、複数の相手の立場を想像して「段差」をつくらないように取

り組むことがウェブの世界でも最低限の礼儀になってほしい。

●なぜウェブ・アクセシビリティへの配慮が必要なのか●

高齢者や障害者はネット社会の重要な構成者である。その存在を疎外した社会は、わたしたちの望む社会ではない。また、有力な潜在的購買者である高齢者や障害者が使にくいようなウェブは、はじめからビジネス・チャンスを失っているという見方もある。ウェブのバリアフリーはこれからの社会に欠かせない基盤なのだ。

●ウェブコンテンツができること

印刷

- ・レイアウト、文字、色を変え印刷
- ・点字で印刷

音声

- ・読み上げスピードの変更
- ・音量の変更
- ・声質の変更

パソコン画面

- ・文字の大きさの変更
- ・色の変更
- ・画面サイズの変更
- ・レイアウトの変更

キーボード、マウスでの操作。

●印刷物ができること

読む

- ・SPコードで音声読み上げ

保存性が高い。
電源がなくてもアクセス可能。
携帯性にすぐれる。



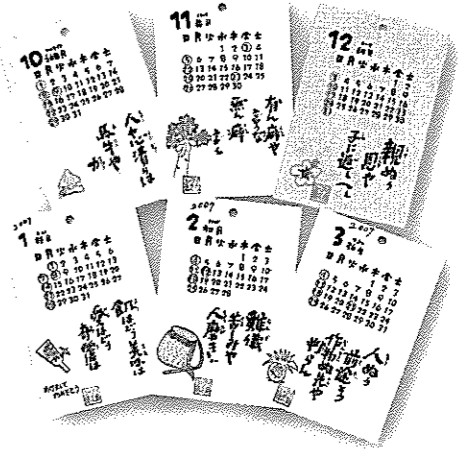
やさしい鹿児島スuisuiナビ
<http://www.pref.kagoshima.jp/home/shogaika/suisui/top/index.html>

「行きたい場所へ行くための情報提供」をコンセプトとし、写真や設備の寸法などできるだけ詳細な情報を提供している。音声読み上げソフトにも対応。



鹿児島のトイレ情報
<http://okkie.hp.infoseek.co.jp/>

おつきいさんが個人で続けている鹿児島のトイレ事情についてのサイト。



[特集]

ウェブ・アクセシビリティについて、ちょっと考えてみよう
バリアフリーなウェブ・サイト PAGE 1

使えるウェブ・困ったウェブ
ウェブコンテンツのJIS規格 PAGE 2

あっぱ

ヒューマンドキュメント
木下 航志さん PAGE 4

あっぱ通心
東岸 林太郎さん PAGE 6

バリアフリー最前線
いおワールド かごしま水族館(鹿児島市)
獣医師 大塚美加さん(鹿児島市) PAGE 7

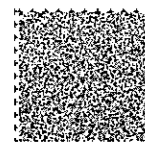
ハードルを越えて
益田 美喜子さん PAGE 8

鹿児島県からのお知らせ
障害者自立支援法について PAGE 9

表紙/「島ことわざエコカレンダー」
第33回鹿児島県身体障害者作品展県知事賞(金賞)
ユーアイ徳之島自立支援センター(徳之島町花徳)

障害者の社会参加の促進と、県民の理解と関心を高めることを目的に開催している作品展で、県内の小規模作業所や授産施設、在宅の身体障害者から応募のあった約5000点の中から最高賞の県知事賞(金賞)を受賞した作品です。牛乳パックを再利用し、島のことわざとイラストで構成、ゆったりとした「島時間」が流れているようなカレンダーです。

カレンダーは、ユーアイ徳之島自立支援センターで販売中。
お問い合わせは電話0997(81)6360芝田さんまで。



Let's think for a moment about web accessibility.

使えるウェブ・困ったウェブ

●車椅子を使用している人や視覚障害のある人が、日々の暮らしのなかでインターネットをどのように利用し、それについてどんなことを思っているか、うかがってみました。



是枝かおりさんの場合

是枝かおりさんは、両上下肢機能障害で車椅子の生活を送っている。仕事はCADや画像加工。「趣味はネット」と言うくらい、一日中パソコンに向き合っていることもある。いちばんの目的は、大好きなロックバンドの情報収集。ネットショッピングやオークションでよく買い物もする。ネットは飽きないからいい。ネットとの付き合いは五年、六年。欲しい情報を得たいときは、ふつうヤフーをよく使う。最近はソーシャル・ネットワークワーキング・サービスのミックスをよく利用する。友だちを身近に感じるし、友だちの輪が広がっていく。友だちの「招待メール」がないと入れないので比較的安全なのがいい。ネットの世界に望むのは、在宅ワークがもっと増えてほしいということ。また、どの路線バスがノンステップバスか、ネットで分かると思いたい。



石堂政美さんの場合

石堂政美さんは脳性小児麻痺後遺症で、会話は聞き取りにくいところもあるが、書く文章はとても明晰。在宅ワーカーとして、東京近郊の不動産ウェブ広告の原稿などのデータチェックをしている。コンピュータとの付き合いはオフコンの時代からだが、相当に長い。石堂さんの考えではパソコン・インターネットは障害者の「魔法の杖」で、絶対に必要なもの。すべての障害者がパソコンを容易に入手できる制度があればいいと考えている。そうすればウェブにアクセスしやすい環境づくりがもっと進むはずだ。ウェブ全般で気になるのは視覚障害者に気をつかったサイトが少ないこと。鹿児島県のウェブで気になったのは、市電と市バスの時刻表は分かるが、民間交通の情報が分からないこと。県内の大手企業はもっと積極的に取り組まないといいない。バリアフリーは、物理的な建物や施設の問題もあるが、人の心の問題という面が大きい。障害のある人も健常者もバリアがあつて、それを取り払うことが大事。障害者が直接コミュニケーションを作つて情報公開し改善し解決していく場所があると思いたい。

[是枝さん、石堂さん、古城さんの取材協力：社会福祉法人 城山福祉会 <http://www.shiroyama-f.or.jp>]



古城一廣さんの場合

古城一廣さんは七年前の頸椎損傷の事故で肢体不自由となった。仕事はデータエックなどの在宅ワーク。仕事の入らないフリーな日は、木工に夢中だ。ウェブは、木工関連の調べものや道具関係の通販でよく利用。入り口はヤフーがメイン。ウェブで感じるのは障害者向けのサイトが少ないような感じがすること。特に鹿児島は、各県単位で、福祉に関することならすぐ調べられる、どんな障害者にも使いやすいポータルサイトみたいなものがあればいい。それに、障害があるとなかなか外に出ないので、外出したくなるようなサイトがあればいいと思う。



益田美喜子さんの場合

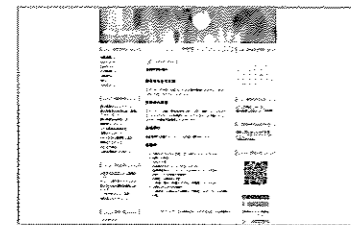
全盲の益田美喜子さんは、読み上げ対応の携帯電話と、読み上げ対応ソフトをインストールしたパソコンを使用。メールで友だちとも連絡をとりやすくなり、メール友だちも増えた。また、メールリンクリストを通じて、ある程度の情報を気軽に知ることができるようになったし、マイニュースというソフトで新聞やラジオの情報をいつでも聴けるようになった。なかつたころと比べると情報量が全く違う。でも、ほとんどのウェブページは読み上げに対応してなくて、使えないのが残念。できれば便利かなと思うのは、視覚障害者用の道案内ネットサービス。

ウェブコンテンツのJIS規格

ウェブコンテンツのアクセシビリティは、二〇〇四年六月二十日に日本工業規格化されています。正式名称はJIS X 8341-3『高齢者・障害者等配慮設計指針・情報機器における機器ソフトウェア及びサービス-第三部：ウェブコンテンツ』です。ウェブを利用するすべての人が、年齢、障害の有無、環境などにかかわらず、ウェブ上の情報に必ずアクセス

でき、コンテンツや機能を問題なく利用できることを目標とした規格です。ウェブ・アクセシビリティに配慮したウェブコンテンツ制作には、JIS規格の理解が欠かせません。

●JIS X 8341-3は、日本工業標準調査会のホームページ(<http://www.jisc.go.jp/>)で閲覧および購入が可能です。



鹿児島ボラネットのブログ
<http://blog.livedoor.jp/kvn/>
鹿児島ボランティアネットワークのブログ。これからの充実を期待。



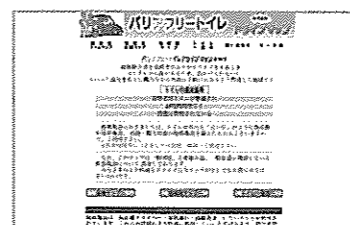
ふくしのもり
<http://www4.synapse.ne.jp/fopage/>
「車椅子トイレ情報を皆さんの投稿で埋め尽くしたい!!」と願う宮之城のfumikoさんのホームページ。



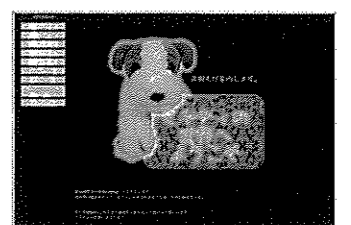
鹿児島市交通局
<http://www.city.kagoshima.lg.jp/koutuu.nsf>
鹿児島市交通局のサイト。車イスで乗降が可能な電停や車イスでの市電への乗降手順の説明ページなどがある。



鹿児島のローカルバス旅時刻表
http://kyushu-bus.net/7_koj/kagoshima.htm
個人サイトだが、鹿児島のローカルバスの情報が充実。各路線のサイトへリンクされているので、バス時刻表のネット上の有無も知ることができる。



鹿児島県トイレドライブマップ
<http://www.qsr.mlit.go.jp/kakoku/ktm/ktmtop.htm>
国土交通省と鹿児島県が提供する鹿児島の道の駅などのトイレ情報サイト。



ミキティの世界へようこそ
<http://www.mamie.jp/mikity/>
障害者向けのパソコン教室の講師、ウェブデザイナー、手話講師、障害者に関する漫画を描く聴覚障害者の漫画家と多くの顔を持つ、鹿児島出身ミキティさんの世界。

ありが ヒューマン ドキュメント

音楽は、からだを、
心をゆさぶるもの
僕の歌声はどこまで響くだろうか

きした こうし [木下 航志さん]



ピアノだけは 弾いてて飽きなかった

木下航志さんがピアノを始めたのは、三歳のころ。自分からやりたいと言ったそうだ。
ピアノは弾いてて飽きなかった。ほかの楽器だと、どうしても飽きてしまう。ピアノだけは長い間弾いてきて飽きることがなかった。それで、それが自分の「音楽」という運命を決めたんじゃないかと思う。
小学校二年のときからストリート・ライブをはじめた。そのころは「ポップのカバー曲が中心で、ドリームズ・カム・トゥルーの曲

や岡村孝子さんの曲を歌った。

そのドリームズ・カム・トゥルーの吉田美和さんとは、のちに共演した。ちょうど変声期前後のころだったので、自分のことを気遣ってくれて、声が出るようになってたかとか、成長期には声をつくるのは難しいとか、いろいろアドバイスもしてくださって、とても印象深い出会いだった。
自分がミュージシャンだと感じるのは、ライブで歌っているとき。ストリート・ライブのころは、ただ単に自分がミュージシャンであるという感覚だけで、ほんと

うのミュージシャンではなかったんだと思うけど、今、ほかのアーティストの方々と一緒に演奏する機会が多くなって、自分もまあ「負けてないな」というのを感じるようになった。ほかのアーティストがライブ、というか、自分も音楽を通してお互いに刺激しあえる存在になったのかなと感じる。自分は完璧主義者ではないと思うけど、追求するタイプかな。

そんなふう語る木下航志さんは、今、ライブ・パフォーマンスとして大きく成長中だ。人の「喜び、



デビュー・ミニ・アルバム

怒り・哀しみ・楽しみ」が木下航志の歌声として結晶しようとしている。機会があれば、ぜひその歌声をライブで体験してほしい。

横断歩道や交差点の不安を 想像してほしい

木下航志さんは、二時間のライブを演じきるプロのミュージシャンであると同時に、鹿児島盲学校に通う高校二年生でもある。

「ほかに、歩道に何気なく置いてある自転車なんか、歩道が広いと車まで停まっていたりしますが、白杖（はくじょう）歩行していると、あれは、途方にくれるくらい困ることを知ってもらいたいです。」

スティービー・ワンダーと 共演したい

好きなミュージシャンはスティービー・ワンダーやレイ・チャールズ。音楽で、これからはいっしょにやってみたいことは、スティービー・ワンダーとの共演だという。「自分と同じように目が見えないということもあるんだけど、そういうのを感じさせないところがやっぱり大好き。」

「共演できそう」と尋ねると「たぶん、だいじょうぶ」と小さな声で答える。「でも、学力を伸ばすことが先かな。ちゃんと卒業できるように。今ちょっと危ないんで」と高校生の素顔になる。

十七歳の木下航志は、まだまだ完璧な歌い手ではないかもしれない。でも、いつか完璧な歌い手になるのではないかと、人に期待させ、想像させる歌い手なのは間違いない。木下航志の歌声のこれからに耳を澄ませ続けよう。

「学校の前に横断歩道があつて、毎日そこを渡るんですけど、そこが音声付きの信号ではないということ。結構不安なんです。でも、盲学校の目の前の信号が音声つきでないというのは何ですかね。究極的には、すべての交差点や横断歩道が音声付きになったらいいなと思うんですけど。」



これからもずっと応援をしてください



ミュージックFMの番組収録あと、伊藤博志アナウンサーと



[木下航志オフィシャル・ウェブサイト]

<http://www.kishitakohshi.com/>

「ホームページではラジオみたいなのをやっていて、そこをもっと充実させていきたい。ファンの方から来た手紙を読んで、言い合うみたいな。」